

犠牲者への冒瀆許さぬ

沖繩 尊厳と命を守る集会

23日、沖繩県糸満市摩文仁の「平和の礎」周辺では、沖繩戦犠牲者の遺骨を含む土砂が名護市辺野古の米軍新基地建設で投入されようとしていることや、県内へのミサイル配備に反対する集会が開かれました。

沖繩戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」の具志堅隆松代表は、「戦没者の血を吸った南部地域の土砂を米軍基地建設の埋め立てに使うことは犠牲者への冒瀆（ぼうとく）に他ならない」と強調。他国を攻撃するようなミサイルの配備は専守防衛から逸脱している」と批判し「攻撃すれば反撃される。この

場が戦場になることを許してはならない」と訴えました。

沖繩「平和の礎」に刻まれた名前を読み上げる集いのクローシンイベントも開かれ、戦争で亡くなった人たちの命について考えようと1日から始めた24万1686人の読み上げを終わりました。



「戦没者の尊厳を守ろう」と訴える「ガマフヤー」の具志堅隆松さん（前列左端）＝23日、沖繩県糸満市